

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 森 俊輔

論 文 題 目


The Significance of the Prognostic Nutritional Index in Patients with Completely Resected Non-Small Cell Lung Cancer

(非小細胞肺癌完全切除患者における予後栄養指数の重要性)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

碓氷章彦 

名古屋大学教授

委員

八木哲也 

名古屋大学教授

委員

今釜史郎 

名古屋大学教授

指導教授

芳川豊史 

論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

今回、非小細胞肺癌完全切除患者の予後と、血清アルブミン値と末梢血リンパ球数から算出される予後栄養指数 (PNI) の関係について後方視的研究を実施した。術後 5 年生存率を検討すると、PNI 高値群は PNI 低値群と比較して有意に予後良好であった。病理病期 I 期の症例に限定しても、同様の結果であった。多変量解析の結果、PNI は独立した予後因子であることがわかった。さらに、PNI と術後合併症の関係について検討した。PNI 低値群で術後合併症が多い傾向を示したが、統計学的な有意差は認めなかった。以上より、PNI は肺癌手術患者の予後因子として有用であることがわかった。

本研究に対し、以下の点を議論した。





1. 本研究で用いた PNI は、血清アルブミン値と末梢血リンパ球数から算出される。リンパ球は、癌細胞に対し殺細胞性免疫応答を開始し、癌の増殖・浸潤・転移を制御する役割を担っている。近年、肺扁平上皮癌において、腫瘍周囲に浸潤するリンパ球数と PNI に相関を認めた報告がある。また、末梢血リンパ球数は肺癌患者の予後因子であることも過去に報告されている。
2. 本研究では、病理病期 I 期の患者に限定しても、PNI 高値群が低値群と比較して予後良好であった。しかし、生存曲線では、術後 3 年以降に差が開いていることが観察できる。交絡因子や肺癌以外の死因の影響が含まれていると考えられる。
3. 肺癌発生部位と PNI の関係についての報告は、これまでにない。本研究でも検討していないため、今後の課題である。
4. 今回、PNI 低値群は、5 年生存率が悪く、術後合併症が多い傾向にあることが分かった。呼吸器外科の術後合併症の一つに、気管支断端瘻がある。栄養状態が不良な患者や重度の糖尿病患者に発生することがあり、治療に難渋する。PNI を参考に、術前のリハビリテーションや栄養療法を行うことで、術後合併症の減少・生存率の改善に貢献できる可能性が示唆された。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号	氏 名	森 俊輔
試験担当者	主査	碓氷章彦	副査 ₁	八木哲也
	副査 ₂	今谷史郎	指導教授	若川豊史
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リンパ球が肺癌患者の予後に与える影響について 2. 病理病期I期患者の生存分析について 3. 肺癌発生部位とPNIの関係について 4. 今後の臨床現場でのPNIの応用について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、呼吸器外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号	氏 名	森 俊輔
試験担当者	主査	碓氷章彦 	副査 ₁	八木哲也 
	副査 ₂	今谷史郎 	指導教授	芳川豊史 
(学力審査の結果の要旨)				
<p>名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。</p>				